

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「豊かな感情や意欲への『気づき』、持てる力・必要な力を『伸ばす』、生活を豊かにするために『活かす』」	
肢体不自由等の障がいのある児童生徒の将来を見据え、一人ひとりのニーズを的確に把握し、小・中・高一貫した教育活動において学力の基礎・基本を身に付けるとともに、キャリア教育を推進し、自立と社会参加へ向けて積極的に学ぶ人間の育成をめざす。	
1	学びの連続性を確保し、系統性・発展性のある教育活動を推進する学校
2	地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校
3	人権尊重、危機管理を徹底し、校内の課題に対し迅速な対応ができる学校
4	児童生徒の卒業後の自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校

2 中期的目標

1	学びの連続性を確保し、系統性・発展性のある教育活動を推進する学校 (1) 学習指導要領の段階を踏まえ、系統性のある教育課程の編成を行い、個別の指導計画に基づいた教科学習を位置づける。 (2) シラバスとキャリアプランニングマトリックスの関連性を確立させ、発展性のある教育活動の向上をめざす。 (3) 学校図書を活用して、意欲的な学習活動の充実を図る。 (4) 児童生徒が主体的に取り組む協働的な活動や自己肯定感を高められる教育活動を推進する。
2	地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校 (1) 大阪整肢学院との連携を継続し、適切な実態把握と一人ひとりのニーズに基づいた「身体への教育的アプローチ」を含む自立活動指導の向上を図る。 (2) 児童生徒一人ひとりの学びを支える ICT 環境を整備し、ICT を効果的に活用した授業実践、取組みを推進する。 (3) 主体的に授業を研究し、授業改善を図り、校外に授業実践を発信する。
3	人権尊重、危機管理を徹底し、校内の課題に対し迅速な対応ができる学校 (1) 日常的な危機管理を徹底し、児童生徒が「大切にされている」と実感できる安全で安心な指導・支援を行う。 (2) 保健・安全・衛生管理・防災等に関して大阪整肢学院と連携し学びを支える環境整備を行う学校づくりを進める。
4	児童生徒の卒業後の自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校 (1) 早期からのキャリア教育の充実を推進し、児童生徒一人ひとりの自主性・自立性を育成する。 (2) 地域への貢献と支援教育に関する専門性を向上させ、追求する姿勢をもちながら、支援教育の充実を推進する。
5	労働安全衛生管理体制の充実 *R 8 から必須項目 (R11 末時点で目標達成) (1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。 (2) ウェルビーイングの視点から、業務負担の見直しや適正化を進め教職員の健康管理と意識改革を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 学 び の 連 続 性 を 確 保 し、 学 校 系 統 性・ 発 展 性 の あ る 教 育 活 動 を 推 進 す る	(1) 学習指導要領の段階を踏まえ、系統性のある教育課程の編成を行う。	ア 教科等横断的な教育課程の定着を図るため、各学部学習内容が系統性のあるものになっているか、検証し、精査を進める (R 7 年度から 3 年計画で取り組む)。	ア・教科会等で検証、精査を重ね、学習内容の精選を図る。 ・学校教育自己診断 (教職員) 【2. 重度重複障がい児童生徒の実態を踏まえた教育課程になるよう、教職員で話し合っている】の項目 85%以上を維持 [87%]	
	(2) シラバスとキャリアプランニングマトリックスの関係性を確立する。	ア R 6 年度に作成した「教科ごとの年間指導計画とキャリアプランニングマトリックスを紐づけたシラバス」を活用し、年間指導計画に基づいて学習内容のつながりを大切にした指導を推進する。	ア・教科会等において、年間指導計画の進捗や課題、必要な見直しについて、継続的に協議する。 ・学校教育自己診断 (教職員) 【4. 年間の学習指導計画について、よく話し合っている】の項目 90%以上 [85%]	
	(3) 学校図書を活用して、意欲的な学習活動の充実を図る。	ア 発達段階に応じて、児童生徒が読書への興味・関心を高め、自ら楽しみながら、読書活動を行うことができるよう、環境の充実を図る。	ア・1 人 1 台端末を用いた読書活動に取り組む児童生徒の範囲を広げることを 2 学期中をめどに検討する。 ・児童生徒会活動等で、活用状況の確認や需要が高い本、活用方法の紹介等、電子書籍の活用推進活動を年 1 回以上行う。[1 回]	

府立中津支援学校

	（４）児童生徒が主体的に取り組む協働的な活動や自己肯定感を高められる教育活動を推進する。	ア 児童生徒会活動をととして、学校生活に対する意欲をさらに喚起し、学校全体の活力を向上させるため、あいさつ運動や地域と連携した清掃活動、学校行事での発表等、体験活動に取り組む。 イ 様々な楽器に触れる、演奏体験を重ねる、鑑賞する等の活動をととして、児童生徒の豊かな情感を育てるため、文化芸術体験に取り組み、体験活動の充実に努める。	・教科の学習等において電子書籍を効果的に活用できる場面を検討し、その可能性を広げていく。 ア・地域と連携した清掃活動を、引き続き、年２回以上行い、児童生徒の自己肯定感をさらに高める。〔２回〕 ・腕章やビブスを着用して主体的に活動する機会を、引き続き、年間５回以上確保し、取組みの定着を図る。〔７回〕 ・学校行事の活性化のため、のぼりや横断幕を作成し、校内の５か所に掲げる。〔５回〕 イ・文化芸術に専門的な知見を持つ人材を活用した取組みを年１回以上実施し、児童生徒が文化芸術に親しむ機会を創出する。〔２回〕 ・取組みの実施後、児童生徒を対象としたアンケートを実施し、肯定的意見 90%以上を維持〔100%〕 ・これまで実施してきた演奏体験を本校の特色ある取組みとして継続していけるよう、２学期中に持続的に進められる仕組みみづくりを検討する。	
2 地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校	（１）大阪整肢学院との連携を継続し、適切な実態把握と一人ひとりのニーズに基づいた「身体への教育的アプローチ」を含む自立活動指導の向上を図る。 （２）児童生徒一人ひとりの学びを支える ICT 環境を整備し、ICT を効果的に活用した授業実践、取組みを推進する。 （３）主体的に授業を研究し、授業改善を図り、校外に授業実践を発信する。	ア 自立活動における教員の専門性を継続的に向上させるため、外部人材等を活用しながら研修会及び勉強会を実施する。 ア 視線入力パソコンやソフトを整え、対象となる児童生徒が活用できる環境を充実させる。 イ 授業でプログラミング教育玩具を使用し、児童生徒が楽しみながら操作に取り組むために、教職員が活用方法を学び合う。 ア 学校として組織的に授業の質の向上を図るため、教員相互に授業見学を行い、自身の授業を評価するとともに、自身の授業に活かせるヒントを得る機会を確保する。 イ 教材教具等を府内で共通に活用するため、学校の Web ページを活用して情報提供を行う。	ア・自立活動に係る研修会等を R 7 年度水準で実施する。〔５回〕 ・学校教育自己診断（保護者等） 【13. 肢体不自由支援学校としての十分な専門性がある】の項目 75%以上〔71%〕 ア・２学期末までに、視線入力の周辺機器・ソフトに係り、環境整備を行う。 ・学校教育自己診断（教職員） 【22. ICT に関する授業実践の蓄積ができている】の項目 90%以上を維持〔90%〕 イ・プログラミング教育玩具を活用に係る校内研修を２学期末までに、１回以上実施する。 ・学校教育自己診断（保護者等） 【12. ICT 機器等を積極的に活用している】の項目 65%以上〔57%〕 ア・２学期に公開授業週間を２週間程度設定し、授業を担う教員（非常勤教員を除く）が、他の学習グループや他学部の授業を１回以上見学する。 ・学校教育自己診断（児童生徒） 【１. 授業はわかりやすい】の項目 90%以上を維持〔91%〕 イ・学校ホームページ内の『教材ブログ』（R 6.10 開設）に、「一人一研究（教員が年間１つの教育実践をまとめる取組み）」において蓄積してきた教材・実践内容を記事として掲載する。２学期中に 20 件の公開をめざす。	

府立中津支援学校

3 人権尊重、危機管理を徹底し、校内の課題に対し迅速な対応ができる学校	（１）日常的な危機管理を徹底し、児童生徒が「大切にされている」と実感できる安全で安心な指導・支援を行う。 （２）保健・安全・衛生管理・防災等に関して大阪整肢学院と連携し学びを支える環境整備を行う学校づくりを進める。	ア 学校事故の未然防止、再発防止のため、教員が教育活動における危険に気づき、適切に判断して、行動できる組織づくりを継続して行う。 ア 自然災害に備えるため、校内の体制整備を充実させるとともに、南海トラフ巨大地震や淀川の氾濫、高潮の発生等、様々な自然災害等を想定した実践的な避難訓練を関係機関や地域と連携して行う。 イ 事件・事故等を想定し、緊急事態に対処するための危機管理体制を確立する。	ア・各学部において、校内のインシデント事象（個人情報の管理を含む）を基にした架空事例にて、事例検討を２学期末までに、１回以上行う。〔１回〕 ア・防災士資格保有者の助言を得て、防災訓練及び関係機関、地域住民が参加する地震・津波避難訓練を前年度水準で実施し、訓練を通して防災関連配備品の有効性や操作性を検証する。〔４回〕 イ・府警等と連携した防犯訓練を２学期末までに実施し、対策本部長である校長による緊急時を想定した意思決定・指示系統が適切に行われたか検証（配備品の確認を含む）を行う。	
4 児童生徒の卒業後の自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校	（１）早期からのキャリア教育の充実を推進し、児童生徒一人ひとりの自主性・自立性を育成する。 （２）地域への貢献と支援教育に関する専門性を向上させ、追求する姿勢をもちながら、支援教育の充実を推進する。	ア 早期からのキャリア教育の充実をめざし、児童生徒に対する進路指導や職業指導を充実させるとともに、就業体験等の機会を確保する。 イ 生徒の自己実現や社会参加を促進するため、高等部段階における自主性・自立性を育成する。 ア 地域における支援教育力の向上をめざし、地域の学校園の教育的ニーズに応じた助言、相談、情報提供を行う。 イ 地域の学校や関係機関、大学等と連携して、障がい理解を推進し、外部人材を活用して学習活動を充実させる。	ア・府の事業や外部人材等を活用した進路講話等を年２回以上実施する。〔３回〕 ・各学部のキャリアアップタイムでの学習を確実なものとして社会性の向上や製品づくりに取り組み、各学部年１回以上販売体験活動を実施する。 ・製品づくりを充実させるため、２学期中に環境整備を行い、本校の特色ある取組みとして「中津ブランド」の確立をめざす。 イ・高等部F Gグループにおける事業所での現場実習について、高３の２学期末までに、生徒一人あたり２施設以上を計画することにより、自己選択・自己決定して進路が決定できるようにする。 ・学校教育自己診断（保護者等） 【11. 将来の進路などについて、適切な指導を行っている】の項目 80％以上を維持〔81％〕 ア・豊能地区の学校園の教職員を対象とした研修を年に２回以上実施する（研修講師を含む）。〔２回〕 ・学校教育自己診断（教職員） 【30. センター機能の充実につとめている】の項目 95％以上を維持〔97％〕 イ・R 7 年度実績を維持しながら、１年をととして継続的に地域の学校等と交流及び共同学習を実施する。〔延べ８回〕 ・大学生等を対象とした支援教育に係る出前講座をR 7 年度水準で実施し、希望に応じて、大学生ボランティア等を受け入れる。〔延べ５回〕	

府立中津支援学校

5 労働安全衛生管理体制の充実	(1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。 (2) ウェルビーイングの視点から、業務負担の見直しや適正化を進め教職員の健康管理と意識改革を図る。	ア 校務支援ツールを活用した業務の効率化、行事の精選を検討し、学校運営の見直しを図る。 ア 児童生徒と過ごす時間や教材研究等、教員が自らの資質・能力の向上を図る時間を確保・充実させるために、校内会議の時間を設定し、メリハリのある校務運営を行う。	ア・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教職員をゼロにする（ゼロを維持する）。 ア・各会議の時間を 45 分に設定し、終了時刻を意識した会議を行う。 ⇒目標達成 70%以上（R 6 に設定） [55%]	
--------------------	---	--	--	--